

第65回京丹後市上下水道事業審議会会議録

1. 開催日時：令和6年2月7日（水） 午後2時～午後3時35分

2. 開催場所：京丹後市役所 峰山庁舎205会議室

3. 出席者：西村正明会長、今田弘一副会長、袖長恵子委員、平野佳代子委員、
草本栄子委員、今井秀一委員、山下初乃委員

欠席者：蒲田幸造委員、柿本寿々子委員

事務局：橋本上下水道部長

経営企画整備課：小坂課長、吉野課長補佐、田宮総務経理係長

施設管理課：岸本課長、西口課長補佐、由良係長

4. 議題

（1）議事等

①京丹後市水道事業ビジョンの策定について

②農業集落排水処理施設（和田野処理区）の公共下水道（網野処理区）への移管について

5. 公開又は非公開の別 公開

6. 傍聴人の数 0人

7. 内容（要旨）

■開会

事務局から第65回京丹後市上下水道事業審議会の開会を告げる。

■上下水道部長挨拶

橋本部長

■会長挨拶

西村会長

■議事（会長が進行）

<会長>

最初に、委員の出欠状況について事務局より報告をお願いします。

<事務局>

条例では、委員定数の半数以上の出席で会議が成立することになっています。

本日の出席者につきましては、審議会委員 9 人中 7 人の出席ですので、本日の会議が成立していることをご報告いたします。

■会議署名人の指名

<会長>

続いて、本日の会議録の署名人を指名します。平野委員にお願いします。

■事務局の説明・質問等

<会長>

それでは議事に入ります。まず、京丹後市水道事業ビジョンの策定について、事務局の方から追加資料の説明をお願いいたします。

<事務局>

事務局説明【資料説明①】

<会長>

今回の追加説明の内容、また前回の内容を合わせてご質問、ご意見がありましたらお願いしたいと思います。

<会長>

意見が出るまでに私から一つ質問します。

今回のビジョンの中で強靱というのがあります。日本は島国で、いつどこで大きな災害が起こるかわかりません。今回の水道事業ビジョンの三つの柱のうちの一つが強靱という内容が提案されたことは非常に良いことだと思います。この強靱の中の二つのうちの一つに挙げている広域連携の推進を具体的に説明してください。

<事務局>

道路、管路、施設の耐震化の取組、また、基幹浄水場である中野浄水場の整備が今年度完了します。この中野浄水場についても耐震の施設として整備を行っています。

また、この中野浄水場の配水池や管路を、耐震化ということを前提にした施設、管路として整備を始めています。これも強靱の一つの取組です。

広域的な連携については、より広域的な取組として水供給を行うことができれば、水道事業者にとってもより強靱な体制構築ができるということで、広域連携で供給に当たれるような形にしたいと考えています。

周りとの連携をとり、体制の強化を図っていきながら、災害時であっても、その供給に繋がるような体制が構築できないかということを他市町を含めて進めていこうと考えています。

<会長>

ありがとうございます。

南部、中部、北部と大きな区分けをして、お互いを助け合っているようですね。

被災された市町村は、もう無茶苦茶になった状態だから、隣町が機能していれば、そちらから供給を受けるのが一番手っ取り早い方法だと思います。

他に意見はありませんか。

<委員>

前回、「郷土を支え未来に続く信頼の水」が仮称とおっしゃっていたが、これで十分だと思います。

また、今後の方向性の水道事業ビジョンですが、令和3年に策定した第4次水道事業基本計画に基づいて事業を進めている途中ですよ。この水道事業ビジョンから見ると、令和10年に中間見直しがありますが、その辺りに第5次の計画ができるのですか。そうではなくて、第4次水道事業基本計画の見直し時で、水道施設に関するものの計画は一度終わるということでしょうか。その中間見直しで、この水道事業ビジョンに基づいて第5次、第6次というように水道事業が進んでいくという認識で大丈夫でしょうか。

<事務局>

確かにそのとおりです。

今の水道事業基本計画は、ストックマネジメントの構成となっています。建設します、更新していきます、というものです。第4次基本計画で中野浄水場の更新整備をし、令和5年度に一応完了します。今度は、配水池の計画を立て、その配水池に至る管路の計画を立てます。これが令和9年度ぐらいまでの計画です。更新したり、統廃合したりという計画は、今後とも必要だと認識しています。

財政状況や、老朽化の状況などを見て優先順位を決めながら、このマネジメントの実践として計画を立てて執り行っていくという形になると考えています。

<委員>

本当に感心しながら読ませていただきました。

一つ目は、広域化に触れていましたが、兵庫県豊岡市は想定に入っているのでしょうか。

二つ目は、人材を育成する話がありましたが、能登地震でもマンパワーはとても不足していて行政の職員さんだけでは限界があるという中で、組織体制についてどのようにお考えでしょうか。

三つ目は、水道事業だけではなく、子育て支援を充実させる、移住定住など、様々な分野からのアプローチができないだろうかと思います。

<事務局>

豊岡市との管路として繋ぐことは別として、給水応援に当たることの取組は、将来的には豊岡市とも話ができればと考えています。

組織体制は、課題と捉えています。年齢層も一定の偏りもあります。広域的な取組によって、他市町を含めた形の中で同じ事業として行うことはできるものについては、広域連携という形で進めてきましょうという案があります。それを課題に挙げていますが、現在、具体化していく段階なので、将来的に実現できたらご報告したいと考えています。

三つ目のご質問が、人口ビジョンの施策は、水道だけで考えるのではなく、確かに子育て支援など、あるいは移住定住を含めた中で考えていくというのは、そのとおりだと考えています。人口の増加や子育て、移住定住につながる施策については、同じように情報共有を進めながら取り組んでいきたいと考えています。

<委員>

人口の推移の件です。この社人研（国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計）と京丹後市人口ビジョンとが、令和10年以降からかなり乖離があります。どうしてこんなに違うのでしょうか。

令和42年にはもう倍ほど違うが、京丹後市人口ビジョンなら我々にはありがたいですが、実際はそうではない気がします。人口減が抑えられて、現状維持できるような住みやすい京丹後市であれば大変嬉しいし、水道事業にとってもありがたいと思うのです。

このあたりは、乖離しすぎているのではないかと疑問に思っています。

<事務局>

ありがとうございます。

確かに乖離があるのは見てのとおりです。ただ一つ言えるのは、社人研の方は、この減少率は直近の新しい部分が2050年までですが、これはこれで本当にここまで減少するのかと気にはなっています。令和10年でどのくらいの差があるのか見定めることができると思います。

社人研の方は、国の機関が長い間の人口見通しを出していて、それを基にするとこうですよということで、多くの市町が使っていると理解しています。

今のところ、おそらく誰も予測がつかないのかなと考えています。

そのような中で、給水を考えた場合は、二つの予測をもった今は、一定の見込みが立てられます。物事を行っていくときは、そこまでの実績もきっとこの数年分出てきます。

将来的な部分についても、一方の予測だけでなく、もう一方の予測の分も十分に加味した上で進めていくことができるのかなと考えています。

令和30年度以降、市の方も見直しがあるかもしれません。こちらにも注視しながら考えていきたいと思っています。

人口に関してですが、人口が減ると職員数も減ります。現在、水道部門の構図を見ても若い職員は数人となっています。

若手職員が少ないと、次に職員が採用されてもその部分に溝ができることになりますので、5年後10年後になると、継続した教育はできないことになります。

採用、京丹後市の財政など、そのことに大きく繋がってくるので、この人口のビジョンというのは、大きなウェイトを占めてくると思います。

<委員>

2点ほど質問します。

1点目、強靱化についてです。京丹後市では京丹後市防災計画があると思います。その中でいろんな防災計画があると思いますが、災害が起きたとき、各部署での役割などが決めて

あったと思います。説明していただいた水道事業についての強靱化と市の防災計画との関わりを教えてください。

2点目は、財政面についてです。現在、収益よりも支出の方が多く、将来もそういう状況が改善されないみたいなのが、この資料の中にあるようです。この水道事業ビジョンの中では、それを改善するための方策がないと思いますので、どのような理由に基づいて記載がないのか教えてください。

<事務局>

まず、地域防災計画と強靱化などの関係についてです。

地域防災計画にあります水道の関係の記載としましては、災害時の給水体制です。災害が起きたときに、まず、どこに優先的に給水をするのか、いかに早く復旧をさせるのかというところを重点に防災計画に記載されているという状況です。

強靱化というところにリンクし難いところではありますが、今後についても、今回、能登半島地震の件もありますので、水道施設の耐震化等も含めた新たな水道事業ビジョンに基づき整備していきたいと考えています。

次に財政面です。支出分を収入では賄えなく、一般的な会社でいうと赤字決算をしているということになります。

水道の場合は公営企業ですので、利益というものが一番ではなく事業の遂行が一番です。それを前提としたときに、赤字がなくなればいいという見方が公益的公営企業という考え方をしています。ここの改善は、当然、アセットマネジメントに繋がってきます。水道事業の財政の健全化に向けた財政基盤の強化、いわゆる財源になるものを確保して、基盤強化をしていく取組が必要と考えています。

しかし、収支のバランスが悪くなることもあり、収支のバランスを保つ方法の一つとして、なるべく避けたいが料金の見直しということになります。京丹後市では、何とか今の財政状況の中で執り行っている最中ですが、先々バランスが悪くなってくると、皆様のご意見をいただきながら、料金算定を行っていく必要があるとも考えています。

<委員>

今、強靱化について説明していただいた中で思ったのが広域的な連携のことです。すでに、与謝野町などの間でやり取りができているということでしたので、防災計画が先か、水道事業の強靱化が先なのかわかりませんが、この話が出ている以上、速やかに、防災計画の方を進めてもらいたいと思います。

それと、財政について、資料のグラフを見ていると内部留保資金が右下がり、最後は下がるところがないところまでになっています。このままでは、水道事業を継続できるのかという印象を持ちました。説明があったように、公益事業なのでお金がないから止めますというようには絶対にいけないので、これを改善する方策も必要ではないかと思いました。

<会長>

時間もかなり経過していますので、このビジョンにつきましての審議は、これで終了とさせていただきますと思いますがいかがでしょうか。活発な意見を出していただいて、ありが

とうございます。

それでは、京丹後市水道事業ビジョンの策定に関する修正意見は、特に無いようですので、引き続き市長に渡します答申内容の審議に入りたいと思います。

<事務局>

事務局より、答申案の説明

(答申案に対する意見交換を行う)

<会長>

後日、私と副会長と二人で答申書を提出したいと思いますので、よろしくお願いします。

続きまして、農業集落排水処理施設の公共下水道への移管について事務局から説明をお願いいたします。

<事務局>

事務局説明【資料説明②】

<会長>

ご質問があればお願いします。

該当する地区の皆さんには何ら変わることはないですね。

<事務局>

施設の方の切り替えだけになります。網野処理区に向かう管渠については、もう整備が終わっています。該当する地区の方々には、全く影響はありませんが、料金名称が変更になります。以前からも説明はしてましたが、3月ぐらいに再度、説明を行う予定です。

<会長>

料金は変わるのですか。

<事務局>

市の料金体系につきましては、差がない料金体系になっています。公共下水道も集落排水も市設置浄化槽でも同じ料金体系です。

<委員>

和田野の農業集落排水処理施設は古いですが、その施設の今後どうするのでしょうか。

<事務局>

建築してから相当な期間が経っていますので、劣化もひどいです。倉庫等の利用等も、今考えてはいますが、具体的には、来年度にしっかりと検討して結論を出そうという考えです。

<会長>

他にご質問はありませんか。

なければ、これで本日の審議終了にさせていただきたいと思います。活発な意見を出していただき、ありがとうございました。

■閉会挨拶

今田副会長

<事務局>

ありがとうございました。

長時間にわたり、大変ありがとうございました。

午後3時35分終了